

## 実績事例

### 移住・定住に向けた取り組み：協力隊インターン制度の活用

日付	活動内容
3/18	移住体験施設への入居手続、チームビルディングのための懇親会。
3/19	買い出し、オリエンテーション、ヒアリングに向けてグループワーク、町内視察、天神岬温泉。
3/20	農作業体験@アイデアファーム鈴木さん、食事交流会@げんき庵山内さん、役場こども課ヒアリング@地域学校協働センター、委嘱状交付式@榎葉町役場、ヒアリングを受けてグループワーク。
3/21	山暮らし体験@『方丈の庵』製作所松元さん、川内村視察@かわうちワイナリー・天山文庫 fuku farming flowers、石崎さん別荘ログハウスで交流@山桜の館。
3/22	課題設定グループワーク、役場アテンドで町内視察@天神岬・木戸川溪谷・木戸ダム。
3/23	休日
3/24	プレスト&資料作成グループワーク（PA高橋取締役メンター）。
3/25	“榎葉町から福島未来を考える”シンポジウム～若者が変える地域と未来～参加、のち懇親会。
3/26	双葉郡内視察@秋風舎オープンイベント・伝承館・ロボットテストフィールド。
3/27	休日
3/28	プレスト&資料作成グループワーク、各人によるフィールドワーク。
3/29	プレゼン最終準備、各人によるフィールドワーク。
3/30	発表練習、成果報告プレゼンテーション、打ち上げ懇親会。
3/31	総括および振り返り、退居手続。

総務省の「地域おこし協力隊インターン」制度を活用し、三大都市圏に住む大学生が、被災地の中心である福島県双葉郡榎葉町において2週間過ごし、地域住民との交流を通じた体験ツーリズムと、地域課題解決プログラム組成のためのフィールドワークを実施。

- ①『縁をつなぐ』体験ツーリズム
  - 地域に眠る資源（人、モノ、場所）を発掘し、地域住民と都市居住者が交流を深めるツアー。榎葉町内及び双葉郡内を視察。
- ②『プログラム組成型』フィールドワーク
  - 地域で生き抜く力を持った、次世代を担う人材を育てるため、こどもの教育プログラムを組成。



現地での実体験の様子。



インターンの集大成として、自治体関係者に榎葉町の「教育」について提言。

# 実績事例

## 移住・定住に向けた取り組み：協力隊インターン制度の活用

本事業の取り組みは、地域の抱える課題に焦点を当てたテーマを選出し、当該テーマに興味のある学生を集客し実施。  
 (※本紹介例は「教育」をテーマに実施。) そうすることで意欲が高く現地でも、目的に向けた自主的な行動をとる学生が増えます。  
 また、学生の積極的な地域住民の方との接触は非常に好感度も高く、多くの現地の皆さまにも温かくご協力を頂きました。

### 【インターン後の状況】

本イベント参加を契機に、学生からは楡葉町の復興への取り組み、被災地における外部からの支援について、考えるようになったとの談があり、その後、学生たちが主体的に『被災地における教育の拡充』を掲げ、日本一の教育の町を目指し、一般社団法人を立ち上げました。その活動も、立ち上げから弊社ピーエイがサポートをしております。



《福島民報 R5.8.3付け》  
 ※同日福島民友でも掲出されました。



地元の子ども達へオリジナル講座を提供。



プログラミング講座の実施風景。

※講師役は  
 すべてインターンに  
 参加した大学生

## 実績事例

### シティプロモーションの取り組み：協力隊インターン制度の活用

前段の取り組みでは、各自治体様への誘引とリアルの現地体験を通じて、当該自治体様に対しての「興味・関心」を高める事が目的となります。

よくある訪問プログラムと違い、弊社の実施プログラムの特長として、「**現地訪問後の継続的な関係性構築も我々がサポート・実施する**」点にあります。

【参加学生たちにこんな変化が・・・】

右記は地域おこし協力隊インターン制度を活用して、檜葉町を訪れた**学生たちが東京で応援組織を作り、檜葉町の特産品を東京で宣伝・販売しよう**という取り組みになります。

自分たちが体験し理解した特産品であるがゆえに、商品の良さを全国の方に伝えたいという思いから、このようなイベントを企画し、実行しています。右記は**東京でのイベント告知になりますが、所属する大学の学園祭でも学生出店として、特産品販売のブースを設けて販売をする計画**になっています。

通常、こういったイベントは自治体様で計画し、**人手と時間に準備をかけて行うケースが多い**と思います。それを**若い人材が首都圏や各地元で実施し、宣伝活動を実施してくれる一石三鳥にも四鳥なる取り組み**です。

弊社では「地域おこし協力隊インターン制度」を活用し、様々なテーマで興味を持った学生の参加を集い、参加者と協力して、様々な分野で実施しています。この実績事例でも、この手法を用いることでシティプロモーションや教育分野、移住・定住施策と多くの分野での活用が可能であり、地域課題解決の有効な手段として今後も活用をしております。

早稲田大学の仲間たちが檜葉町の特産品を販売する「福島屋 早大店」を出店してくれます！！🍌🍷

これを皮切りに、今年度は全国5大学の学園祭やマルシェで双葉郡の特産品を売りまくります🔥

@WASEDA.CONNECT

📍田町駅 三田口(西口)



# 実績事例

## シティプロモーションの取り組み：ワーケーション宣伝、学生連携事例

### 福岡県福岡市様 イベント写真



スライド上映を行いながら  
地域の魅力を説明



ご当地クイズを行いながら  
特産品の宣伝（プレゼントも）



CVN施設内のテナントを使い、  
特産品を用いた飲食販売を実施



イベント後も、施設内店舗で  
懇談会へ

ワーケーション誘致目的でのイベントを実施。自治体としての取り組みをスライドやクイズ形式で伝えつつ、地元開催イベントへの誘因も狙い。

### 北海道帯広市様 イベント写真



学生同士でのディスカッション  
地域PRプロモーションをテーマに。



トークセッションを行い、  
参加者と近い距離で理解を深める



学生ミーティングの発表。  
市の職員の方へのプレゼンを行い、  
実際に取り組む事例も出ました。



企業間のミーティングとして開催  
縁からリアルな結びつきへ。

学生の部と企業の部の二部構成（昼・夜）で実施し、多くの方々と触れ合う機会を創出。特に学生はMTG後も継続で活動し、企業とのプロジェクトも進行中。

### 京都府様 イベント写真（場所：Have a Nice TOKYO！）



会場内で、直接蔵元様から  
宣伝と一緒に日本酒を提供



会場内の様子  
自由な歓談スペースを設けました



外国人旅行者の方も当日参加  
日本文化に親しんで頂く良い機会に



日本酒にちなんだトークイベント  
（MCの方と酒蔵様とで対談）



京都産食材を用いた料理講座  
その場で召し上がって頂き喜んで  
頂けました



日本酒を提供しながら  
来場者との対話を

### 《実施の流れ》

京都府の特産品を用いて、その**商品と  
京都府そのものをPR**したいというご要望



**日本酒と京都産特産品を使ってイベント  
を構成検討**



若者に向けた認知度向上、東京駅近辺  
という立地を生かした観光客の誘客に  
指向性を設定

- ▶ 若者向けに無料で参加可能なモニター制のチケット
- ▶ 京都産のものを使った料理講座
- ▶ 実際の酒蔵様からの説明や日本酒PRのトークイベント

などを企画し、実施。  
多くの方にご来場いただき、楽しんで頂きました。  
特に、トークイベントと料理講座では参加者の方からの  
積極的な会話生まれ、企画の趣旨である『京都の  
日本酒』についての認知度・人気度は向上したものと  
捉えています。

※弊社は京都DMOへ人材を派遣し、現地での積極  
的な活動も行っております。

# 実績事例

## 特産品振興の取り組み：マルシェや展示、食イベント実施例

### 京都府亀岡市様 イベント写真



自治体紹介パネルの展示



アンケートも行い、自治体の認知度調査も実施



特産品の直接販売



特産品に並ぶ来客者  
亀岡野菜が人気

計3日間の連続イベントで、地域の方にも浸透し、連日お越しになる方や、話を聞いて遊びに来た、という方もいらっしゃいました。

### 北海道 地域連携による共同出展イベント写真



公園の歩道を利用した  
イベントを開催



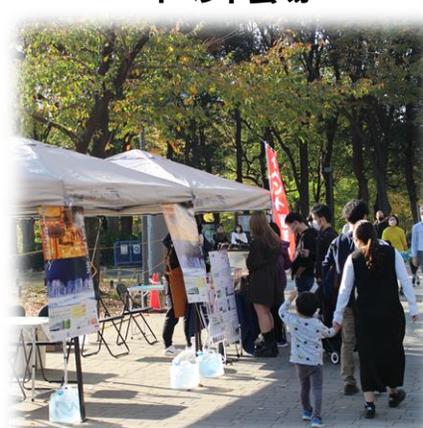
家族連れの方で賑わう  
イベント会場



現地より物産販売に来訪  
北海道の特産品は注目度が高い



JR北海道様の協力  
地元宣伝ポスター等の掲示



持ち帰り自由の自治体パンフ、  
ナベルティなども配布



キッチンカーも手配  
食事もとりながら長く滞在して頂けた

土日でのイベント開催。家族連れも多く興味をひきやすい。当日はアンケート&会員登録も行い、200名を超える登録者を獲得。